

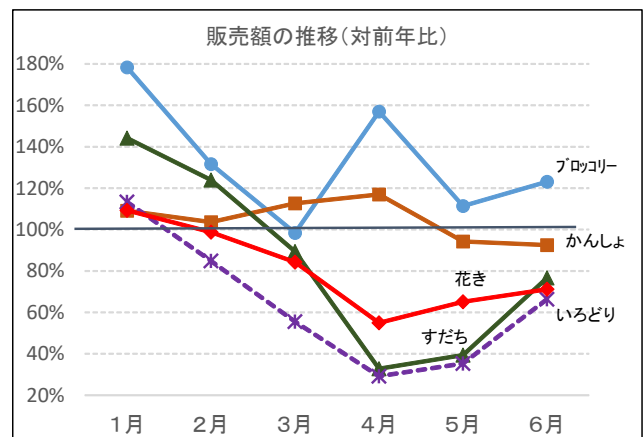
新型コロナウイルス感染症に係る農林水産業への影響について

1. 令和2年4月の緊急事態宣言発令による影響

- 4月7日に東京、大阪など7府県において発令され、同月16日に全国に拡大。
 - ・ 農林水産物の販売に関しては、外出自粛に伴う家庭内需要の高まりにより、家庭向け食材の取引は堅調であった。
 - ・ 一方、ホテルや飲食店向けの品目は、全国で臨時休校の要請がなされた3月から影響が発生し、特に4月以降、急激な価格の下落や需要の減退が生じた。

①農業

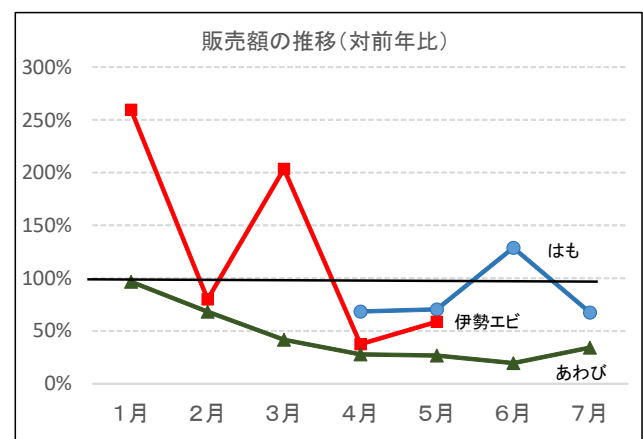
- ・ 「ブロッコリー」は、家庭内需要の増加により4月の販売額は対前年比150%越え、5、6月も100~120%で推移。「かんしょ」もほぼ100%を越え、堅調に推移
- ・ 「すだち」「いろどり」は、3月頃から販売額が減少し、4月には対前年比30%まで大きく減少
- ・ 「花き類（ユリ・バラ・シンビジウム）」は、イベントの中止・縮小の影響により、4月から6月にかけて販売額は対前年比50~70%で推移



野菜・果樹：東京・大阪市場販売状況 県調べ
花き：関西生花市場市況状況

②水産業

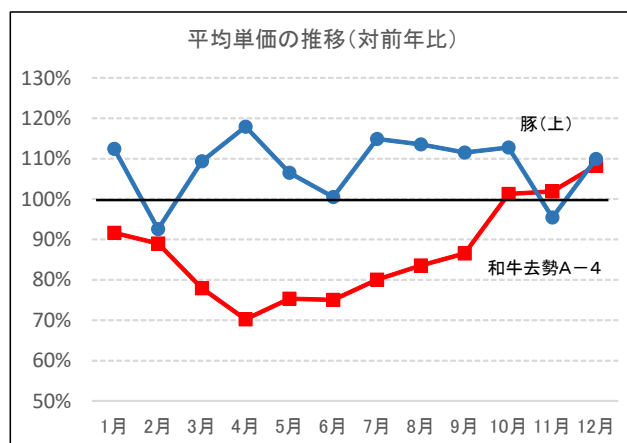
- ・ 飲食店需要の減退により、県産水産物の販売額は、高級魚を中心に大きく下落
- ・ 「伊勢エビ」は、3月に一時、販売額が増加したものの、4月以降は対前年比50%前後で推移
- ・ 「あわび」は、1月から徐々に減少し、出漁の見合わせもあり、3月以降は対前年比50%以下で推移
- ・ 「はも」は、需要縮小に加え、不漁も重なり、期間を通じて販売額が低迷。特に7月は祇園祭、天神祭の縮小を受け、販売額は対前年比70%を下回った



大阪市中央卸売市場 市況情報

③畜産業

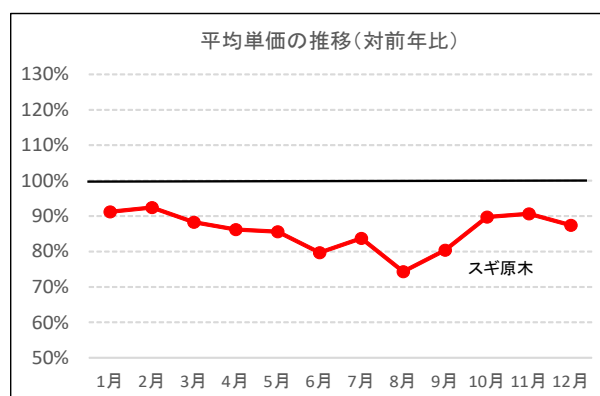
- ・ 豚肉は、家庭内需要が好調だったことから、価格は1年を通じてほぼ対前年比100%を越えて推移
- ・ 和牛肉は、外食需要の縮小を受け、4月には、単価が対前年比70%にまで下落。10月から年末にかけては、回復基調となり、対前年比で100%を越えて推移



大阪市中央卸売市場 市況情報

④林業

- ・ 住宅着工戸数の減少等により、原木単価もその影響を受け、年間を通じて相場は低迷



県内市場状況 県調べ

2. 令和3年1月の再発令による影響

1月8日（首都圏4都県）、同月14日（大阪など7府県）から、緊急事態宣言が発令されており、外出の自粛要請、発令地域を中心に営業時間短縮・休業要請が実施されている。

【生産者の声】

○農業、水産業

- ・ 緊急事態宣言発令を受け、「すだち」や「伊勢エビ」の市場価格が大きく下落
- ・ 昨年12月下旬時点で、「養殖ぶり」が生け簀に例年より2割程度多く滞留

○畜産業

- ・ 昨年12月の取引量は前年と比べて、「和牛肉」「阿波とん豚」は約3割減少、「阿波尾鶏」は約2割減少

○林業

- ・ 木材価格の低迷が続く中、木材需要の先行きの不透明感が広がっており、木材生産以外での収入源の確保が必要

【団体からの要請】

- 緊急事態宣言の再発令を受け、農業、林業、水産業、畜産業の各関係団体から需要喚起や雇用の維持、経営資金対策などへの支援に係る要請がなされた